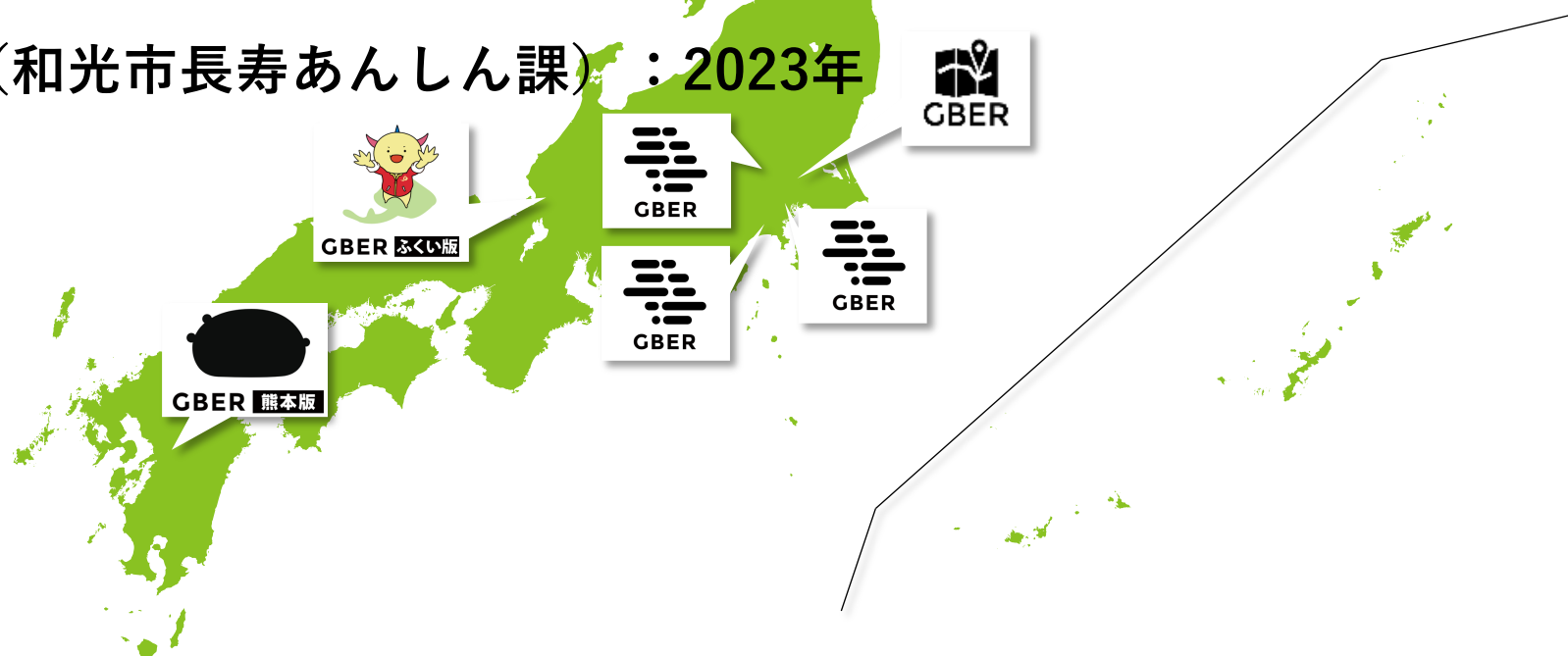


# GBER活用の広がり

- 一般社団法人セカンドライフファクトリー（千葉県柏市）：2016年
- 熊本県（熊本県生涯現役推進地域連携協議会）：2019年
- 東京都世田谷区（世田谷ボランティア協会）：2022年
- 福井県（きらめきくらしのサポート・県民せいきょう）：2022年
- 鎌倉市（鎌倉市商工課）：2023年
- 埼玉県和光市（和光市長寿あんしん課）：2023年



GBER@Kashiwa



# 一般社団法人セカンドライフファクトリー SLFガーデンサポートでの作働事例

セカンドライフの就労モデル開発研究<sup>[11]</sup>

**就労セミナー 7期 (2011年11月～2013年3月)**

**就労勉強会 18回 (2012年2月～2013年9月)**

- 働く心構え、地域のニーズ、モザイク型就労への理解
- セカンドライフファクトリー設立 (2013年4月)



就労セミナー/勉強会<sup>[11]</sup>

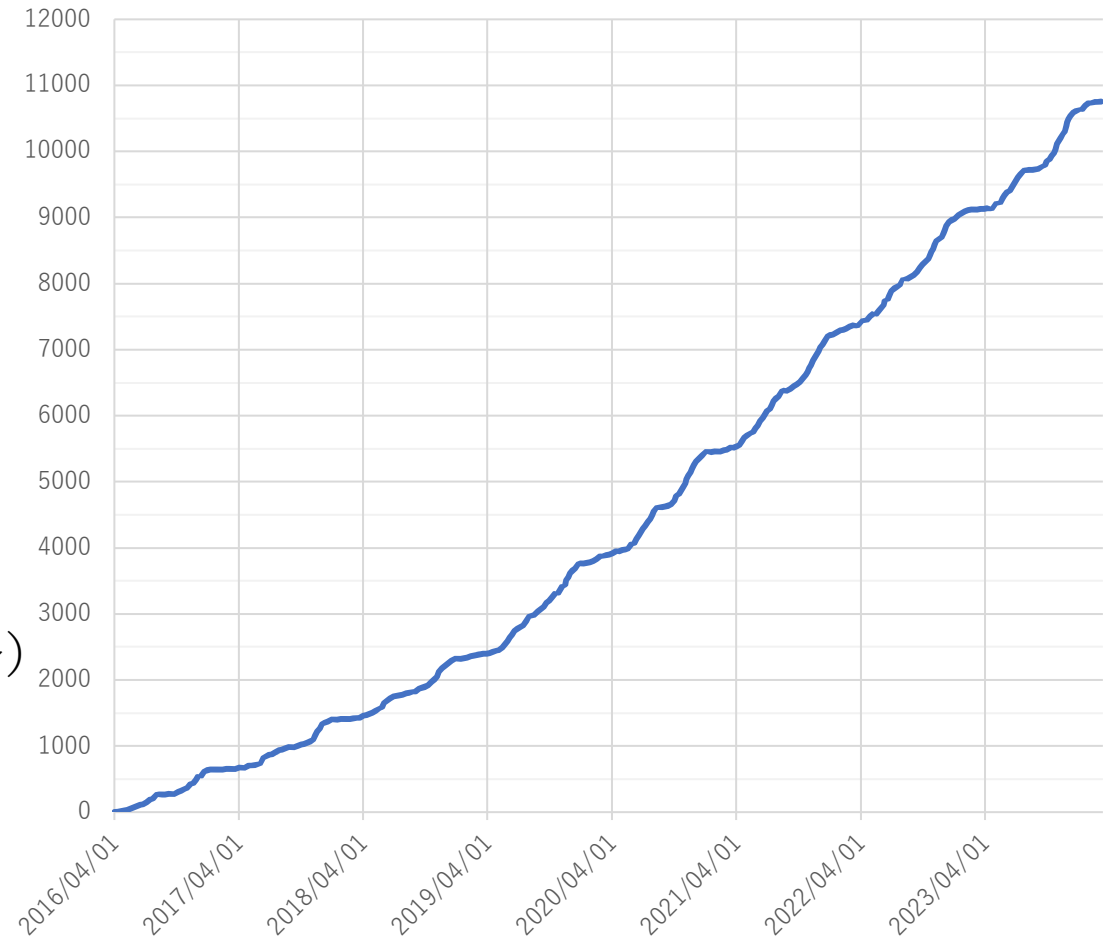
SLFガーデンサポート設立 (2015年)

インクルーシブデザインによるGBERの研究開発 (2015年～)

SLFガーデンサポートでのGBERの運用 (2016年4月) <sup>[12]</sup>

- **コアメンバーが地域住民からの仕事を受注**
- **メンバーは作業内容を学びながら参加**
- **GBERでメンバーのスケジュールを確認**
- **就労日程を確定して、モザイク就労を実践**

GBER: SLFガーデンサポート(全タスク延べ就労人数)



メンバー：49名

[11] JST RISTEX 「セカンドライフの就労モデルの開発研究」 研究開発実施終了報告書

[12] Shoma Arita, Atsushi Hiyama, Michitaka Hirose, "GBER: A Social Matching App which utilizes Time, Place, and Skills of Workers and Jobs", ACM CSCW 2017.

# GBERを地域一般で作動させるための課題

## 貢献寿命を高める地域づくり

**ワンストップでの情報提供体制の構築と情報の信頼性の確保：**  
担当課の異なる地域活動の情報をワンストップで提供する体制構築  
活動主体が安心して参加できる団体であることのスクリーニング

**まちづくり事業等のモザイク化：**  
祭りなどの地域振興、防災の強化

## 学び

## Learning

## 貢献寿命を高める学び

### 自己と地域への関心：

高齢期のエンゲージメントを高める  
生き方、地域の作り方を学んで実践  
するプログラムの実装

### ICT利用スキルの向上：

社会参加への基礎的な導入から実践  
的活用方法まで学べる場づくり  
普段から使うことで災害時のライフ  
ラインとしても活用していける

## 行政 自治体

## Industry・Society

## 地域活動の発掘

## Community

## 住民の参加

**コミュニティの可視化：**  
地域活動の社会的意義の発信

**現役世代の業務を補助する仕事の発掘：**  
働き方改革の推進とのセット、職務給の導入

### 気軽に地域参加する好奇心：

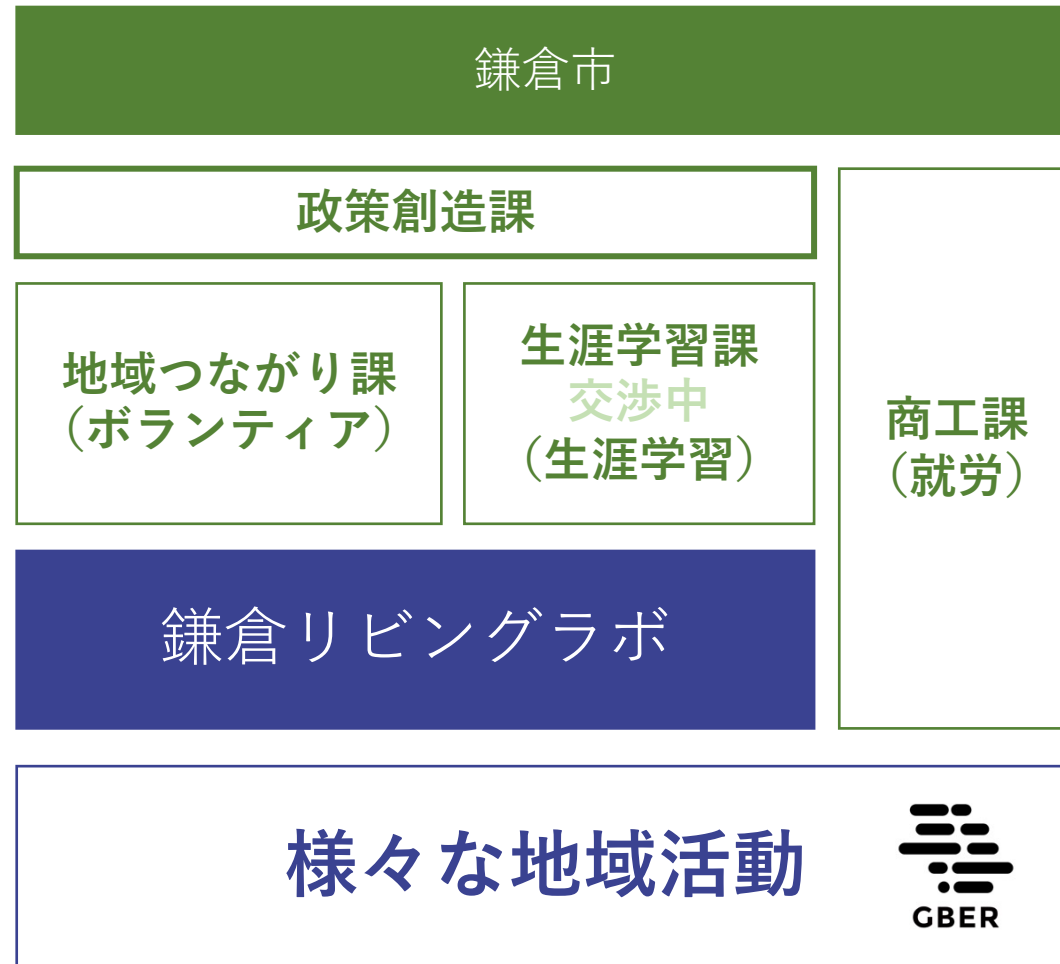
まずは住まう地域と自分自身の再発見から

# GBER活用の広がり

中間支援組織を育成することで  
行政の縦割りを乗り越える工夫



鎌倉市役所内での  
複数課の協力を得られる新体制の構築



# 地域課題を発掘し、地域団体とグループで取り組むリビングラボ（国立市周辺）

- 国立市役所
- 国立市社会福祉協議会
- 国立市ボランティアセンター
- 国立市観光まちづくり協会
- 国立市公民館
- 東京女子体育大学
- くにたち未来共創拠点 矢川プラス
- くにたち農園の会
- UR都市機構
- BASE☆298
- ひらくスペース
- ジャズ&バー ハーバーライト
- くにたち富士見台人間環境キーステーション



不動産ニュース 2023.10.30  
[https://www.re-port.net/picture\\_l/report/0000074076\\_06.jpg](https://www.re-port.net/picture_l/report/0000074076_06.jpg)

立川市社協地域福祉コーディネーター  
 October 25

【一橋大学のソーシャル・データサイエンス入門IIの講義にお邪魔してきました】  
 こんにちは👋第4地区(栄町・若葉町)担当の地域福祉コーディネーターの高橋です🍎  
 10月10日に、一橋大学のソーシャル・データサイエンス入門IIの講義にて、BASE☆298の現状や課題を、学生の皆さんにお話させていただきました🌟  
 これからBASE☆298は、ソーシャル・データサイエンス学部1年生のみなさんのグループフィールドワークの受け入れをし、データサイエンスの視点からBASE☆298を分析してもらいます！  
 BASE☆298にとっても、学生さんにとっても実りの多い機会になると確信しています🌱  
 写真はBASE☆298実行委員の医療法人社団 東京石心会のお二人と👩🏫  
 素敵なキャンパスに心が躍りました😊👏  
 ※BASE☆298は、若葉町団地バス停前でボランティアが運営しているコミュニティスペースです。Instagramはこちらから👇  
[https://www.instagram.com/base\\_nikuya/](https://www.instagram.com/base_nikuya/)



国立市ボランティアセンター  
 10月24日

先日課題案の提供をした一橋大学の檜山先生のSocial Data Scienceの授業の生徒さんが、ボランティアターの課題に関心を持って、ヒアリングに来て下さいました。  
 1時間ほどの話し合いの中で、すでに気になるポイントなど浮かんでいるようでした。  
 今後が楽しみです。  
 (伊藤)



学部教育での実践から生涯学習プログラムへ発展させる方向もあり得る

# 産学官民で取り組む豊かな超高齢社会を実現する政策

社会参加への最初の一步を身構えずに気軽に始められるように

- 行政の縦割りを乗り越える中間支援組織を育成し自立化させていく
  - ICT等の新しいテクノロジーに触れる機会を創出し、積極的な学びと活用を喚起する
  - 地域課題/企業課題の抽出とアプローチ方法への多様な住民のモザイク型の参画
  - ソーシャルインパクトボンド(地域活動の活性化による税収増)、情報掲載料、マッチング手数料等からの財源確保
- 住民の生活圏は行政区をまたがる場合もある：地域間ネットワークの構築
  - 地域をまたがった人と活動の往来、関係人口を増やす
- 多様な人材の力を借りられる就労や参加の仕組み（自治体内の事業から）
  - 地域事業のタスク分解とモザイク型の参加促進

地域の自治体・教育機関・地域産業・住民コミュニティが一体となって持続可能な地域づくりを考え実践するリビングラボの構築を支援する政策